

## 令和4年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

### 平均正答率

#### 1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	上回った	同等	上回った	上回った	同等	上回った
埼玉県	62.1	56.2	63.8	63.0	63.0	59.8

#### 2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	6-C	6-A	7-A	5-A	6-C	7-B
埼玉県	6-C	6-A	7-A	5-B	6-C	6-A

#### 3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小		-1	2		1	2
埼玉県		0	3		1	1

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		小4		小5		小6	
質問事項		深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	83.9	79.6	94.8	82.1	88.8	85.5
	・はっきりあいさつをすることができる	94.1	75.8	89.8	75.6	90.4	77.7
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	91.2	81.9	91.0	83.2	95.3	83.5
学習習慣	・勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える	67.6	49.5	53.9	47.7	57.1	51.7
	・勉強をするときは、最初に計画を立ててから始める	61.8	42.3	53.8	41.6	50.8	44.3
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	58.9	54.4	69.3	60.1	68.2	60.8
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	35.3	24.4	33.3	19.5	17.5	19.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	73.5	67.2	70.5	70.5	87.3	75.2
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	83.9	75.5	89.7	72.8	90.5	63.5
ICTの活用	・昨年度の国語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	13.2	18.6	29.5	18.3	22.2	19.5
	・昨年度の算数の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	10.3	14.6	43.6	13.4	25.4	14.8
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	35.3	24.3	48.7	24.4	55.5	24.0
その他	・自分には、よいところがある	88.2	79.9	85.9	78.2	90.5	77.6
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	91.2	76.8	87.2	77.7	87.3	75.3
	・将来の夢や目標をもっている	88.2	86.9	88.5	87.3	90.5	81.9

### 【質問紙分析】

- ・「はっきりあいさつをすることができる」の割合が県と比べて高いのは、立ち止まり挨拶の取組を継続しているからだと考えられる。
- ・「地域の歴史や自然に関心をもっている」の割合が県と比べて高いのは、地域人材を活用して深谷ねぎを育てたり、中山道見学を通してその歴史を尋ねたりするなどのふるさと教育を充実させているからだと考えられる。

- ・「昨年度の国語・算数の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた」の4年生の割合が県と比べて低いのは、児童に対する ICT スキルの指導が不十分であったことが原因だと考えられる。そのため、児童がタブレットを効果的に活用できるように、タブレットタイム等を活用し、低学年のうちから意図的・計画的に指導していく必要がある。

### 伸びが見られた学級・教科での取組

#### 【学級】

- ・伸びが見られた学級では、タブレットを全教科で効果的に活用し、児童の興味を引く課題を設定し、学習意欲を高めていた結果だと考えられる。
- ・伸びが見られた学級では、家庭学習の見届けを丁寧に行い、一人一人に応じた支援をきめ細かく行っていた結果だと考えられる。

#### 【国語】

- ・伸びが見られた国語では、全校で暗唱に取り組んだり、朝学習「チャレンジタイム」において、全国学力・学習状況調査の過去問題に取り組んだりしてきた結果だと考えられる。

#### 【算数】

- ・伸びが見られた算数では、習熟度別による少人数指導の中で、低位層には基礎・基本の確実な定着を図る授業を、上位層には、学習したことを生かす発展的な授業を実践してきた結果だと考えられる。

### 一人一人をより伸ばすための取組

- ・「学力向上プロジェクト」問題に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図っていく。
- ・授業や家庭でのタブレットの使用頻度をさらに高め、使用場面や使用アプリを考え、効果的に活用した学びを推進していく。
- ・伸びがあまり見られなかった国語においては、読書指導を充実させ、学校や家庭で本に触れる機会を増やし、読解力の向上を図っていく。